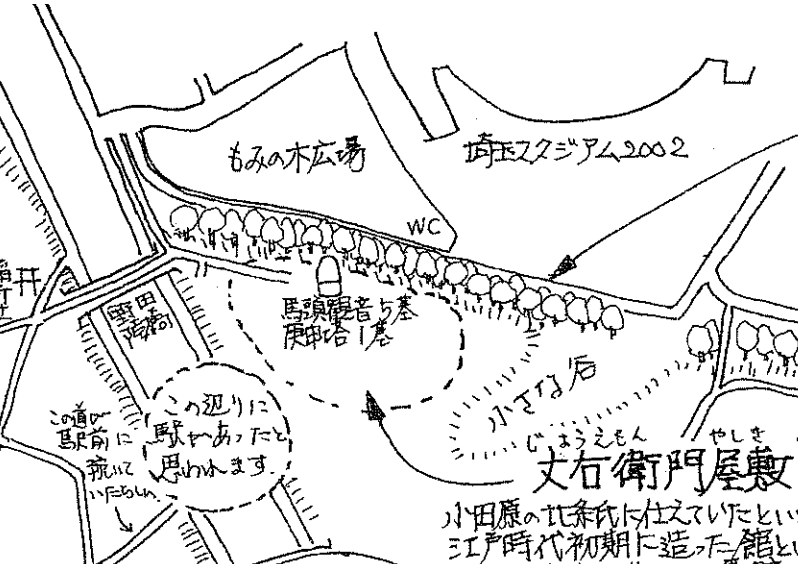


武州鉄道

大正13年(1924)から昭和13年(1938)まで、蓮田・岩槻、川口神根の16.9kmを結んでいたが、東京都内まで延伸計画が実現しなかった。

このあたりは、野田です。「武州野田」という駅がありました。武州鉄道が廃止された後、武州野田駅という駅名は残りましたが、現在は「武州野田」ではなく「野田」になっています。



台地と低地の間・斜面の植物

- ムラサキシキブ
- クサギ
- ハンキ
- スイカズラ
- ケヤキ
- ヒサカキ
- マルデ
- ミスズキ
- アオキ
- アケビ
- フジ

台地と低地の間は、斜面の植物が豊富です。アケビやフジなど、斜面に生える植物が多いです。

セッカ

セッカは、スズメより小さく、色も茶色で目立たず、草むらの中にいてなかなかじっくり見る事ができません。しかし、飛んでいる時はかなりキレイです。波の音に飛び、上昇する時は「ヒッヒッ」、下降する時は「ジャッジャッ」と鳴ります。



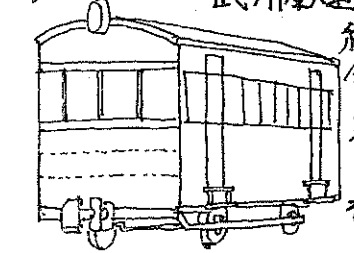
セッカ

スズメより小さい

台地と低地、どっちも自然も生きて生きる

今回は埼玉の武州野田。二の南側の台地とそこに入り込んだ侵食谷で観察します。浦和方面から来て、大規模な開墾が進んだので、よく見てみると、昔の人の生活の痕跡が見えたりします。自然も生きて生活した様子、今も小さな生き物たちが環境に適応して生きています。

武州野田駅停車場道路



後頼川を渡った武州鉄道の前には、台地や谷の入り口があります。そのため、台地と谷の間に、切り通しを造って鉄道を通しました。今はそこに東武自動車道が通っています。

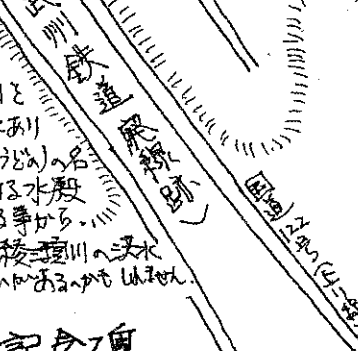
重殿社本殿などの建物軒下には、今はめずらしいアリジゴクの巣があります。



重殿社 小田原の入口と望む台地と谷の間にあり、重殿(しげの)の谷が、洪水に閉ざされた谷(すさび)に似る等から、谷の中にある田畑を後頼川の洪水から守りたい人々の願いが込められています。

空地・野草

- アサギソウ
- ヒメジョオン
- マダコバウチ
- カラスミ



中野田不動堂

寛文3年(1663)に造られた不動明王の本堂とする。今の不動堂の建物は天明6年(1786)に造られた。浅間山大噴火で避難してきた職人達が滞在し、お世話になったお礼に建てたといわれています。



埋立地の野草

- シロツメクサ
- アサギソウ
- アサギソウ
- アサギソウ
- アサギソウ
- アサギソウ
- アサギソウ
- アサギソウ
- アサギソウ
- アサギソウ

この辺りは小田原谷の入り口です。3000年前は海岸でした。

停車場道路工事記念碑

昭和4年(1929)日光街道から武州野田駅まで、道路の穴を埋め、記念して建てられました。裏面に「同族の根柢、朽ちる事アルモ、我等、努力ハ今尚石文ニ刻み置かれり。当時、人々の鉄道に対する思いが感じられます。



日光御成街道

江戸の徳川将軍が日光へ参拜する時に通行しました。同様に家並や門を護衛しやすい道路とされたようです。元々は約800年前に、鎌倉幕府が造った3大鎌倉街道の一つで、鎌倉と東北地方を結んだ中道です。昔の街道は自然や地形に合わせて造られている、(自然も破壊する程の要所はない)ため、環境にやさしく、大雨でも洪水になりにくいのです。

春日景定

重殿社の隣、明照寺ゆかりの戦国武将、岩槻の大田氏、小田原、北条氏のもとで働いた戦功をあげた。北条氏の後には、徳川家康に仕え、伊奈町を本拠として、野田村も治めた。

下野田緑地の植物

- タラシ
- ドクダミ
- シメジ
- ヒヨドリバナ
- オセバネ
- ケヤキ
- ハンキ
- マルデ
- シロシ
- ムクキ
- ネズミムシ
- ヒサカキ
- クサギ
- アケビ
- アサギソウ
- スズメ
- スズメ



下野田緑地には、大田氏の墓や、昔の井戸など、自然の生き物もいます。

2020年6月6日調査 小川 浩